

第11回日展

第5科書

特選受賞

書家・教師 宮本耕成さん

とらびと
vol.22

展覧会の最高峰で特選

東京都世田谷区にある成城学園中学校高等学校で書道を教えながら、書家として作品を展覧会に出品するほか、都内2か所で書道教室を開いています。

今回特選に選ばれた「日展」は、書だけでも毎年1万点ほどが出品される日本最大の展覧会です。出品された作品のうち、1割程度が「入選」として展示され、その中から10点が「特選」に選ばれます。これまで約40年にわたり出品し、20回ほど入選しましたが、特選に選ばれたのは今回が初めてです。

書道、そして師との出会い

私が書道と出会ったのは、小学校の低学年の頃です。ヤンチャだった私を落ち着かせたいと、親が近所の書道教室に入れ

Kousei Miyamoto

1963年 土居町上野生まれ
東京都武蔵野市在住
関川小→土居中→土居高→
大東文化大学中国文学科
大学在学中に書家 上條信山
(1907-1997) に弟子入り
卒業後は、埼玉県や東京都
の高校で教鞭を執りながら
作品を発表。1998年から
成城学園中学校高等学校で
書道を教える

たことがきっかけでした。理由が理由なので、正直嫌々通っていました(笑)。書道教室には高校生まで在籍していました。が、当時は中学校から始めたサッカーに夢中になっていて、卒業後は日本体育大学に進学したいと考えていました。運命が変わったのは、高校3年生の秋です。学校近くの書店のお兄さんが見せてくれた、1冊の本。そこに収められていた、ある書家の作品に心を奪われました。「この人から書道を教わりたい」

師の書を継承する

上條信山——私が師と仰ぐ書家です。後ろにあるのが師の作品で「壮心不已」と書かれています。師の書風は、太く力強い、そして独特な筆運びが特徴で、「信山バリ」と呼ばれています。一年の浪人生活を経て、師が教鞭を執っていた大東文化大学に入学した私は、授業だけでなく、師の鞆持ちをしながら信山バリを学んでいきました。大学卒業後も教員として書道を教える傍ら、師の下で書を学び、展覧会などで作品を発表してきました。

今、目の前に広がっているのは、特選に選ばれた作品と同じもの

です。「斂蔵」と読み、才能を潜める、隠すという意味があります。日展に出品するために、800枚ほど書きました。



第11回日展第5科(書)特選「斂蔵」宮本耕成

今回、このような名誉な賞を頂きましたが、高校生の私に人生を変えるほどの影響を与えた師の書には、まだまだ及ばないと思ひ知らされました。師という頂を目指し、そして信山バリを継承、発展させていくために、今後も研鑽と展覧会などへの出品を続けていきます。

人を成長させるもの

書道はスポーツのように点数やタイムが出るわけではありません。でも、作品には書家自身の考えやその師の教えが現れます。教えてもらったということは、自分の悪い部分を直すことでもあり、それを「成長」と呼ぶのだと思います。

人を成長させることができず、これが書道の最大の魅力ではないかと私は思っています。